# 地域との関わりが
# 都市の満足度に与える影響について
# ～東日本大震災の被災地での意識調査分析～

谷本　真佑[1]・南　正昭[2]

[1]正会員　岩手大学助教　理工学部システム創成工学科（〒020-8551 岩手県盛岡市上田四丁目3番5号）
E-mail:stani@iwate-u.ac.jp

[2]正会員　岩手大学教授　理工学部システム創成工学科（〒020-8551 岩手県盛岡市上田四丁目3番5号）

本研究では，東日本大震災津波で甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市での住民意識調査を基に，住民による生活環境の満足感や地域との関わり方と，地区全体への満足度との関連性について分析を行った．

満足感や関わり方の度合いを考慮した二項ロジット回帰分析を行った結果，地区全体の満足度との関連性は生活環境の満足感で強い傾向にあること，地区全体の満足度が「満足」以外の水準では地域との関わり方も有意な関連が示された．加えて，地域との関わり方が密でなくても地区全体の満足度が向上する可能性や，地域との関わりが非常に乏しい場合は地区全体の満足度が低下するとの示唆が得られた．

***Key Words :*** *Reconstruction City Development, Life Satisfaction, Community Involvement*

## 1.　はじめに

東日本大震災から12年が経過した現在，被災地で進行中の復興関連事業が完了しつつあり，市街地嵩上げ事業や高台造成事業が行われたエリアでも新たな市街地が形成され始めている．被災地では震災前から人口減少が問題視され，現在も人口減少の傾向は継続している．復興事業の完了後には，被災地での復興まちづくりは新たな段階に進むものと考えられ，都市施設整備を主体としたまちづくりから，人口減少下でも地区に居住することへの満足度を維持・向上させるまちづくりへと移行することが想定される．

大規模災害の発生直後から復旧・復興に至る過程で，様々な場面で住民による地域との関わり方の重要性が指摘され，復興まちづくりと地域との関わり方を取り上げた研究事例は，Tatsukiら[1)]や後藤[2)]など数多くなされている．

東日本大震災の被災地で行った著者らの研究[3)]では，住民による地域との関わり方により生活環境の評価構造に影響を与えるとの結果が示されている．しかし地区全体の満足度を「満足」とする要因の分析は行われているが，満足の度合いや不満の影響に関する検討には至っていない．加えて，地域との関わり方の程度や頻度などの考慮した分析には至っておらず，生活環境や地区への満足度や地域との関わり方が，それらの有無という二者択一的な考察に止まっている．満足度の維持・向上には，現況の満足度の維持・向上に加え，満足度低下の抑制や不満解消の観点も考えられ，満足度や地域との関わり方の程度を考慮した分析は重要と考えられる．

そこで本研究では，東日本大震災津波で甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市を対象に，住民意識調査に基づく地区全体への満足度の要因分析を行った．居住地域の生活環境への満足度と地域との関わりの程度を考慮した分析を通し，これらが居住地区への満足度に与える影響を考察した．

## 2.　研究方法

### (1)　研究対象地域

本研究は，東日本大震災で死者・行方不明者が1,700人に達した[5)]岩手県陸前高田市を対象に行った．同市では，海岸付近の地区のみならず，津波が川を遡上したことにより海から比較的離れた地区でも被害が生じた．直近に実施された2020年の国勢調査によると，同市の人口は約18,000人であり，震災直前の国勢調査（2015年）と比較し約1,500人減少している．現在は，大規模な嵩上げ事業が行われた高田町や，高台造成事業が行われた気




図１　調査対象地域

表２　地域との関わり方に関する質問項目と回答選択肢

| 質問項目 | 選択肢 1 | 選択肢 2 | 選択肢 3 | 選択肢 4 |
|---|---|---|---|---|
| 面識・交流のある人 | ほとんどの人と面識・交流あり | 半分程度の人と面識・交流あり | 少数の人と面識・交流あり | 面識・交流はほとんどない |
| 挨拶や会話を行う頻度 | よく行う | ときどき行う | あまり行わない | 全く行わない |
| 自治会や町内会活動への参加 | よく参加する | ときどき参加する | あまり参加する | 全く参加しない |
| 防災訓練への参加 | よく参加する | ときどき参加する | あまり参加する | 全く参加しない |
| 消防団・自主防災組織への参加 | よく参加する | ときどき参加する | あまり参加する | 全く参加しない |
| ボランティア活動への参加 | よく参加する | ときどき参加する | あまり参加する | 全く参加しない |
| 他地区の人と会う機会 | よくある | ときどきある | あまりない | 全くない |

仙町など市内各地区で新たな市街地が形成され始めている．

### ⑵　調査方法

本研究では，東日本大震災津波により大きな被害の発生した陸前高田市高田町，気仙町，矢作町，竹駒町を対象地域とする住民意識調査を実施した．調査対象地域を図１に示す．調査は2023年1月20日から2月24日に実施した．調査票の配布は対象地区の住居へポスティングにより行い，同封した返信用封筒で回収を行った．2,660世帯に調査票を配布したところ，1,244票の有効回答が得られた．調査では，居住地域の生活環境に対する満足感や，日頃の地域との関わり方について尋ねた．生活環境の満足感についての質問項目は，既往研究[4]での住民意識調査を参考に設定し，合計で９項目に対する満足度を尋ねた．その上で，「地区全体に対する満足度」を最後に設定した．回答者には，各項目に対し，「満足」「やや満足」「どちらでもない」「やや不満」「不満」の５つの中から回答をいただいた．さらに，地域にとの関わり方に関する質問項目を７項目設定し，日常的に地域住

表１　回答者属性

| (%) | 男性 | 女性 | 不明 |
|---|---|---|---|
| 20代以下 | 1.0 | 1.2 | 0.2 |
| 30代 | 2.3 | 1.6 | 0.6 |
| 40代 | 4.2 | 4.3 | 0.4 |
| 50代 | 9.4 | 8.9 | 0.6 |
| 60代 | 11.0 | 11.5 | 4.6 |
| 70代以上 | 16.6 | 13.5 | 6.7 |
| 不明 | 1.0 | 0.2 | 0.2 |

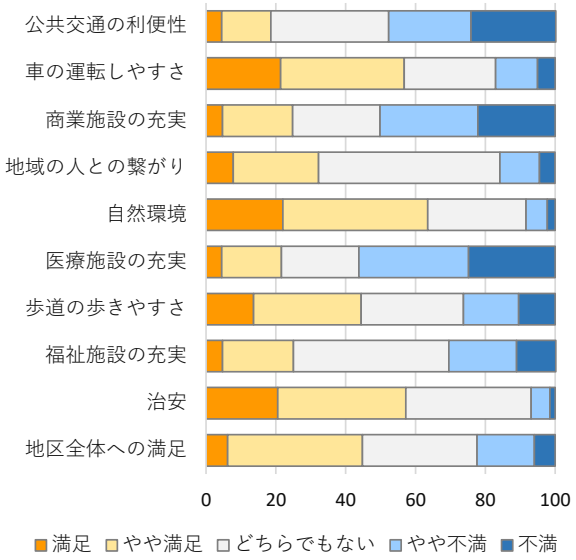



図２　生活環境・地区全体の満足度への回答結果

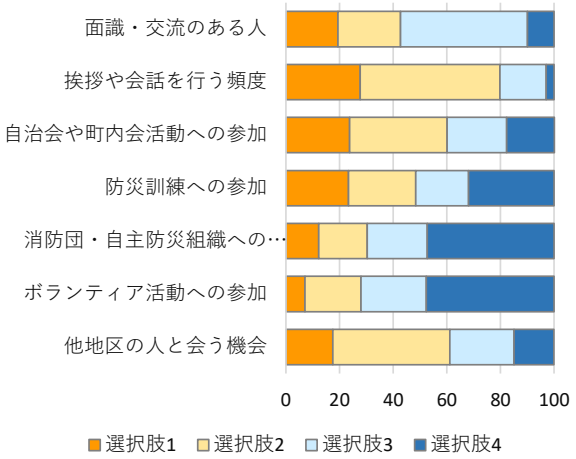



図３　地域との関わり方への回答結果

民や社会との関わる程度や頻度を尋ねた．質問項目および回答の選択肢を表２に示す．質問項目は，当該地区の状況を踏まえ，対象地域の範囲，交流の強弱，公私を考慮して設定した．

### ⑶　分析方法

本研究では，満足度や地域との関わり方の程度を考慮した地区全体への満足度の要因を分析するため，二項ロジット回帰分析を行った．

表３　満足度水準別にみた地区全体と生活環境に対する満足度との関連性

| | 地区全体への満足度 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 |
| 公共交通の利便性 | | | | |
| 満足 | 20.82 *** | 0.99 | 0.00 | 5.14 |
| やや満足 | 1.33 | 4.11 *** | 0.39 * | 1.60 |
| やや不満 | 0.57 | 0.68 * | 3.51 *** | 1.92 |
| 不満 | 0.24 * | 0.35 *** | 4.83 *** | 37.45 *** |
| （定数項） | 0.06 *** | 0.70 *** | 0.09 *** | 0.01 *** |
| 車の運転しやすさ | | | | |
| 満足 | 18.70 *** | 3.65 *** | 0.38 *** | 0.40 |
| やや満足 | 1.65 | 5.36 *** | 0.39 *** | 0.24 ** |
| やや不満 | 0.00 | 1.04 | 3.12 *** | 1.64 |
| 不満 | 1.02 | 0.13 ** | 1.94 * | 17.11 *** |
| （定数項） | 0.02 *** | 0.25 *** | 0.24 *** | 0.06 *** |
| 商業施設の充実 | | | | |
| 満足 | 55.23 *** | 0.97 | 0.00 | 0.00 |
| やや満足 | 3.29 ** | 4.12 *** | 0.45 * | 0.71 |
| やや不満 | 1.24 | 0.77 | 3.51 *** | 1.15 |
| 不満 | 0.42 | 0.36 *** | 5.98 *** | 10.81 *** |
| （定数項） | 0.03 *** | 0.61 *** | 0.08 *** | 0.02 *** |
| 地域の人との繋がり | | | | |
| 満足 | 16.09 *** | 1.44 | 0.34 * | 0.37 |
| やや満足 | 1.88 | 3.83 *** | 0.46 ** | 0.23 ** |
| やや不満 | 0.65 | 0.38 *** | 3.17 *** | 1.34 |
| 不満 | 0.55 | 0.35 ** | 1.58 | 13.54 *** |
| （定数項） | 0.03 *** | 0.49 *** | 0.20 *** | 0.06 *** |
| 自然環境 | | | | |
| 満足 | 15.02 *** | 5.50 *** | 0.30 *** | 0.25 ** |
| やや満足 | 1.59 | 6.10 *** | 0.63 * | 0.26 *** |
| やや不満 | 0.00 | 0.81 | 2.61 *** | 1.67 |
| 不満 | 0.00 | 0.19 | 0.99 | 18.06 *** |
| （定数項） | 0.02 *** | 0.19 *** | 0.26 *** | 0.09 *** |

| | 地区全体への満足度 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 |
| 医療施設の充実 | | | | |
| 満足 | 51.24 *** | 0.54 | 0.41 | 0.00 |
| やや満足 | 4.65 ** | 3.12 *** | 0.26 ** | 1.30 |
| やや不満 | 1.32 | 0.72 * | 3.01 *** | 4.29 |
| 不満 | 0.25 | 0.32 *** | 4.54 *** | 76.45 *** |
| （定数項） | 0.03 *** | 0.75 * | 0.09 *** | 0.00 *** |
| 歩道の歩きやすさ | | | | |
| 満足 | 17.58 *** | 2.77 *** | 0.13 *** | 0.25 |
| やや満足 | 1.06 | 4.65 *** | 0.47 ** | 0.33 * |
| やや不満 | 0.82 | 0.88 | 2.91 *** | 0.87 |
| 不満 | 0.62 | 0.34 *** | 3.02 *** | 9.77 *** |
| （定数項） | 0.03 *** | 0.36 *** | 0.18 *** | 0.05 *** |
| 福祉施設の充実 | | | | |
| 満足 | 52.36 *** | 0.97 | 0.00 | 0.78 |
| やや満足 | 3.87 *** | 4.46 *** | 0.24 *** | 0.54 |
| やや不満 | 0.65 | 0.56 ** | 3.74 *** | 1.35 |
| 不満 | 0.56 | 0.28 *** | 4.02 *** | 26.95 *** |
| （定数項） | 0.03 *** | 0.57 *** | 0.14 *** | 0.02 *** |
| 治安 | | | | |
| 満足 | 146.34 *** | 3.27 *** | 0.44 ** | 0.46 * |
| やや満足 | 13.09 * | 5.53 *** | 0.42 *** | 0.17 *** |
| やや不満 | 0.00 | 0.32 * | 4.63 *** | 3.38 ** |
| 不満 | 0.00 | 0.21 | 1.29 | 23.30 *** |
| （定数項） | 0.00 *** | 0.26 *** | 0.26 *** | 0.08 *** |

*** 0.1%有意　　** 1%有意　　* 5%有意

分析は２段階に分けて行った．まず，生活環境への満足度や地域との関わり方の各水準が，地区全体の満足度のどの水準と関連しているかを分析した．ここでは，地区全体の満足度を従属変数，生活環境への満足度または地域への関わり方のいずれか１項目を選択し独立変数として設定した．分析に際し，満足度や地域への関わり方への回答結果を全て二値で表現するため，各回答水準を新たな変数として設定した．これを基に，地区全体の満足度のある１水準につき，生活環境への満足度または地域との関わり方との間で二項ロジット回帰分析を計16ケース行った．得られた結果より，地区全体の満足度の各水準と有意な関連性が示される生活環境への満足度ならびに地域との関わり方の項目・水準を抽出した．

続いて，前述の分析より抽出された各項目・各水準のうち，地区全体の満足度の特定水準が示される結果の要因となり得る項目・水準を抽出した．ここでは，前者を独立変数，後者を従属変数とする二項ロジット回帰分析を行い，地区全体に対する満足度水準と有意に関連する生活環境への満足度ならびに地域との関わり方の水準を抽出した．

## 3.　調査結果

### (1)　生活環境への満足度

図２は，生活環境項目に対する回答結果を示しおり内容は，先行研究[3]と同様である．

満足度が比較的高い傾向にあるのは，「車の運転しやすさ」「自然環境」「治安」で，「満足」「やや満足」への回答が半数前後を占めた．一方で満足度が比較的低い傾向にあるのは「公共交通の利便性」「商業施設の充実」「医療施設の充実」で，「やや不満」「不満」への回答が半数程度を占めた．「地区全体の満足度」は，「満足」や「やや満足」への回答が4割程度となり，満足度は比較的高い状況が示された．

### (2)　地域との関わり方

図３は，地域との関わり方に対する回答結果を示しており，内容は先行研究[3]と同様である．地域住民との直接的な接触を尋ねた「お住まいの地域の面識，交流のある人」と「近所の人と挨拶や会話を行う頻度」では対照的な結果が示された．前者は「面識・交流のある人」の人数が比較的少ない選択肢に回答が集まり，後者は「挨拶や会話を行う頻度」が比較的多い選択肢に回答が集まった．一方，「挨拶や会話を行う頻度」が「全くない」との回答も2割程度存在している．類似項目の「他地区の人と会う機会」では，頻度が比較的高い回答が半数以上であった．

表４　満足度や関わり方の水準別にみた地区全体の満足度と地域への関わり方との関連性

| | 地区全体への満足度 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 |
| 面識・交流のある人 | | | | |
| ほとんど | 1.63 | 1.76 *** | 0.74 | 0.85 |
| 半分 | 1.48 | 1.53 ** | 0.54 ** | 0.59 |
| ほとんどない | 0.61 | 0.95 | 0.66 | 1.92 * |
| （定数項） | 0.06 *** | 0.51 *** | 0.25 *** | 0.07 *** |
| 挨拶や会話を行う頻度 | | | | |
| よく | 3.68 ** | 2.11 *** | 0.46 *** | 0.72 |
| 時々 | 1.44 | 1.64 ** | 0.51 *** | 0.63 |
| 全くない | 1.75 | 0.61 | 0.17 * | 1.88 |
| （定数項） | 0.03 *** | 0.40 *** | 0.35 *** | 0.09 *** |
| 自治会や町内会活動への参加 | | | | |
| よく | 2.03 | 1.94 *** | 0.54 ** | 0.64 |
| 時々 | 1.68 | 1.18 | 0.73 | 0.82 |
| 全くない | 0.83 | 0.84 | 0.62 * | 1.77 |
| （定数項） | 0.05 *** | 0.52 *** | 0.27 *** | 0.07 *** |
| 防災訓練への参加 | | | | |
| よく | 1.12 | 1.29 | 0.85 | 1.33 |
| 時々 | 0.60 | 1.12 | 0.69 | 1.71 |
| 全くない | 0.57 | 0.73 | 0.68 | 2.38 * |
| （定数項） | 0.08 *** | 0.63 *** | 0.25 *** | 0.04 *** |
| 消防団・自主防災組織への参加 | | | | |
| よく | 0.96 | 1.27 | 0.78 | 1.30 |
| 時々 | 0.98 | 0.81 | 1.26 | 1.92 |
| 全くない | 0.81 | 0.66 ** | 1.26 | 2.12 * |
| （定数項） | 0.07 *** | 0.77 * | 0.17 *** | 0.04 *** |
| ボランティア活動への参加 | | | | |
| よく | 1.11 | 1.39 | 1.44 | 1.55 |
| 時々 | 0.68 | 1.09 | 1.13 | 1.85 |
| 全くない | 0.57 * | 0.56 *** | 1.26 | 2.86 ** |
| （定数項） | 0.09 *** | 0.79 * | 0.17 *** | 0.03 *** |
| 他地区の人と会う機会 | | | | |
| よく | 1.58 | 2.21 *** | 0.83 | 0.94 |
| 時々 | 0.95 | 1.95 *** | 0.82 | 0.78 |
| 全くない | 0.71 | 1.10 | 0.75 | 2.78 ** |
| （定数項） | 0.06 *** | 0.40 *** | 0.23 *** | 0.06 *** |

*** 0.1%有意　** 1%有意　* 5%有意

地域の活動への参加を尋ねた項目のうち，「自治会・町内会活動」と「地域の防災訓練」では参加頻度が比較的高い回答が半数程度またはそれ以上を占めた．一方「消防団や自主防災組織への参加」や「ボランティア活動への参加」では，参加頻度が比較的低めの回答が半数以上を占めるに至った．

## 4.　分析結果

### (1)　生活環境への満足度水準と地区全体の満足度

表３は，地区全体の満足度のうち「どちらでもない」を除く各水準を従属変数に，生活環境への満足度のうち１項目のみを対象にその各水準を独立変数として二項ロジット回帰分析を行い，得られた調整オッズ比である．なお，独立変数についても「どちらでもない」は分析対象から除外した．

表３より，地区全体の満足度水準が「満足」を従属変数として設定した分析ケースでは，いずれの生活環境項目でも「満足」の水準で有意性が示された．また，「商業施設」や「治安」などの項目では「やや満足」との水準でも有意性が示されたものの，調整オッズ比は「満足」よりも小さくなった．このことから，地区全体に対し「満足」となり得る要因は各生活環境への「満足」との水準であり，一部の項目での「やや満足」の水準もある程度寄与するものと考えられる．

類似の傾向は，地区全体の満足度が「不満」を従属変数とした分析ケースでも見られた．有意性が示された項目・水準では，各生活環境項目に対する不満の度合いが高くなるほど調整オッズ比も大きくなる傾向が見て取れる．また，一部の生活環境項目では「やや不満」や「やや満足」など，他の満足度水準でも有意性が示されるケースが見受けられ，「満足」を従属変数とした場合と同様の特徴がここでも示された．このことから，地区全体に対する「不満」は各生活環境への「不満」の水準と有意に関連し，不満の度合いが大きくなるほど地区全体への不満に繋がるものと考えられる．

地区全体の満足度が「やや満足」「やや不満」でも類似の傾向がみられたものの，一部で異なる傾向が示された．従属変数が「やや満足」の分析ケースの「地域の人との繋がり」や「医療施設」では，独立変数の「やや満足」に有意性が示される一方，それよりも満足度の高い「満足」の水準では有意性が示されないケースが見られた．また，従属変数が「やや不満」の分析ケースの「車の運転しやすさ」では，「やや不満」の調整オッズ比が「不満」を上回る結果となり，不満の水準とは反対の傾向が示された．このことから，地区全体に対する「やや満足」「やや不満」は各生活環境に対する満足度の水準と有意な関連があるものの，必ずしも満足度の度合いと比例するとは限らないといえる．

### (2)　地域との関わり方の度合いと地区全体の満足度

表４は，表３と同様の書式の表であり，地域との関わり方を従属変数として得られた調整オッズ比である．ここでは，地域との関わり方の選択肢３に該当する水準を分析対象から除外している．

表５　地区全体の満足度の水準別構成要素

| | | 地区全体への満足度 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 |
| 公共交通 | 満足 | 2.55 | | | |
| | やや満足 | | 2.06 ** | 0.66 | |
| | やや不満 | | 0.99 | 1.45 | |
| | 不満 | 0.43 | 0.81 | 1.99 * | 3.69 ** |
| 車の運転しやすさ | 満足 | 2.34 * | 1.30 | 0.93 | |
| | やや満足 | | 1.89 ** | 0.64 | 0.64 |
| | やや不満 | | | 1.67 | |
| | 不満 | | 0.16 * | 0.74 | 4.30 ** |
| 商業施設 | 満足 | 5.17 ** | | | |
| | やや満足 | 1.51 | 1.80 ** | 1.21 | |
| | やや不満 | | | 2.71 *** | |
| | 不満 | | 0.73 | 3.71 *** | 1.36 |
| 地域の人との繋がり | 満足 | 1.90 | | 1.06 | |
| | やや満足 | | 1.84 ** | 0.85 | 0.64 |
| | やや不満 | | 0.70 | 1.90 ** | |
| | 不満 | | 1.31 | | 3.57 * |
| 自然環境 | 満足 | 1.45 | 2.87 *** | 0.66 | 0.36 |
| | やや満足 | | 3.19 *** | 1.15 | 0.52 |
| | やや不満 | | | 2.31 * | |
| | 不満 | | | | 1.16 |
| 医療施設 | 満足 | 3.75 * | | | |
| | やや満足 | 1.33 | 1.45 | 0.59 | |
| | やや不満 | | 1.11 | 1.52 | |
| | 不満 | | 0.89 | 1.53 | 7.04 *** |
| 歩道の歩きやすさ | 満足 | 1.70 | 1.46 | 0.29 * | |
| | やや満足 | | 2.04 *** | 0.74 | 0.93 |
| | やや不満 | | | 1.66 * | |
| | 不満 | | 0.88 | 1.15 | 1.10 |
| 福祉施設 | 満足 | 1.59 | | | |
| | やや満足 | 1.15 | 1.61 * | 0.50 | |
| | やや不満 | | 0.73 | 1.77 * | |
| | 不満 | | 0.93 | 1.15 | 3.13 ** |
| 治安 | 満足 | 37.30 ** | 1.15 | 1.12 | 1.16 |
| | やや満足 | 11.21 * | 2.06 *** | 0.78 | 0.30 |
| | やや不満 | | 0.33 * | 2.56 ** | 3.21 * |
| | 不満 | | | | 6.41 * |
| 面識・交流のある人 | ほとんど | | 1.11 | | |
| | 半分 | | 1.15 | 0.67 | |
| | ほとんどない | | | | 1.04 |
| 挨拶・会話の頻度 | よく | 2.08 | 0.77 | 0.71 | |
| | 時々 | | 1.08 | 0.61 * | |
| | 全くない | | | 0.21 | |
| 自治会町内会活動 | よく | | 1.38 | 0.88 | |
| | 時々 | | | | |
| | 全くない | | | 0.56 * | |
| 防災訓練への参加 | よく | | | | |
| | 時々 | | | | |
| | 全くない | | | | 3.12 * |
| 消防団・自主防の活動 | よく | | | | |
| | 時々 | | | | |
| | 全くない | | 1.40 | | 0.25 * |
| ボランティア活動 | よく | | | | |
| | 時々 | | | | |
| | 全くない | 1.48 | 0.72 | | 2.10 |
| 他地区の人と会う機会 | よく | | 1.79 * | | |
| | 時々 | | 1.47 * | | |
| | 全くない | | | | 1.27 |
| （定数項） | | 0.00 *** | 0.06 *** | 0.08 *** | 0.01 *** |

*** 0.1%有意　　** 1%有意　　* 5%有意

地区全体の満足度が「満足」または「不満」を従属変数とした分析ケースでは，有意性が示された項目・水準が限られ，「やや満足」「やや不満」を従属変数としたケースで比較的多くの項目・水準で有意性が示される結果となった．このことは，地域との関わり方が地区全体の満足度に与える影響は，満足度が「やや満足」や「やや不満」で比較的大きくなる傾向を示唆している．

地域住民との直接的な関わりを尋ねる「面識・交流のある人」と「挨拶・会話の頻度」は，関わり方の密度が異なる項目であるが，地区全体の満足度が「満足」を従属変数としたケースと「不満」を従属変数としたケースで特徴的な結果が示された．前者では，関わり方が比較的密である「面識・交流のある人」のいずれの水準でも有意性が示されない一方，関わり方が比較的軽めの「挨拶・会話の頻度」では「よく行う」で有意性が示された．しかし後者では「挨拶・会話の頻度」ではどの水準でも有意性が示されない一方，「面識・交流のある人」では「ほとんどない」で有意性が示された．このことは，地域住民との密な関わりが必ずしも地区全体の満足には繋がるとは限らないが，関わりの乏しさが地区全体への不満に繋がることを示唆している．加えて，地域住民との関わり方が比較的軽めであっても，その頻度の高さが地区全体の満足度に繋がる可能性を示している．

従属変数を「やや満足」とした分析ケースでは，「面識・交流のある人」と「挨拶・会話の頻度」のいずれも選択肢１および２で有意な関連性が示されている．両者を比較すると，「挨拶・会話の頻度」で地区全体の満足度との関連度合いが比較的高いことが，調整オッズ比の値から読み取られる．また，「面識・交流のある人」では，「ほとんどの人と面識・交流がある」と「半分程度の人と面識・交流がある」との調整オッズ比の差が0.2程度となり，両水準間で地区全体の満足度との関連度合いに大きな差のないことが示された．

さらに従属変数を「やや不満」とした分析ケースでは，「面識・交流のある人」よりも「挨拶・会話の頻度」で有意性が示された水準が比較的多い傾向にある．これらの結果も，地域住民との密であるほど地区全体の満足に繋がるとは必ずしも言えないことを示唆している．

### ⑶　地区全体の満足度水準ごとの要因分析

前節での分析により地区全体の満足度の各水準と有意な関連性が示された生活環境および地域との関わり方の各水準を独立変数とし，地区全体の満足度の各水準を従属変数として再度二項ロジット回帰分析を実施した結果を表５に示す．

地区全体の満足度と有意な関連が示された項目は，いずれの分析ケースでも生活環境項目で多い傾向にあり，地域との関わり方では数項目または有意性が確認されない結果が示された．

生活環境項目で有意性が示された項目・水準を見ると，「商業施設」や「治安」では多くの分析ケースで有意性が示されており，当該地域の満足度を形成する重要な要素であると判断できる．また，地区全体の満足度が「不満」でのみ有意性が示された「医療施設」では，調整オッズ比が7.0と比較的大きな値を示す水準が見られたことから，「医療施設」への不満が当該地区への不満を構成する大きな要素であると推察される．さらに，地区全体の満足度が「やや満足」や「やや不満」の分析ケースにおける「地域の人とのつながり」や「福祉施設」のように，「やや満足」や「やや不満」で有意性が示された一方，「満足」や「やや満足」では有意性が示されない項目も見られた．

地域との関わり方は，地区全体の満足度が「満足」を除く各ケースで有意性が示される項目・水準が確認できたが，各ケースで有意性が示される項目が異なる結果となった．また全体的な傾向として，有意性が示された調整オッズ比の値が生活環境項目より比較的小さくなる傾向が見て取れる．このことは，地区全体の満足度との関連性が生活環境項目より比較的薄いことを示している．ただし，地区全体の満足度が「不満」の分析ケースにおける「防災訓練への参加」「消防団・自主防災組織の活動」では，調整オッズ比が生活環境項目並みの値を示している．このため地域との関わり方は，地区全体の満足度を「不満」とする要素としての側面が比較的強いことが示唆された．

## 5. おわりに

本研究は，東日本大震災津波による甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市を対象とし，生活環境への満足度と地域との関わり方に関する住民意識調査を基に，地区全体の満足度の要因分析を行った．満足度や地域との関わり方の水準の違いによる影響について二項ロジット回帰分析を適用したところ，次の結果が得られた．

まず，地区全体の満足度の主要因となるのは，いずれの満足度のでも，生活環境の満足感である結果が示された．一方で地域との関わり方は，地区全体の満足感を「やや満足」「やや不満」「不満」とする要因になり得ることが示唆された．

次に，地域との関わり方が密であることは，地区全体の満足度の向上要因になるとは限らないことや，地域との関わりがある程度有していることが地区全体の満足度を向上させる可能性が示された．一方で地域との関わり方は，地区全体の満足度を「不満」とする要因となり得る結果も示されたことから，地区全体の満足度を考えるに際し，地域との関わり方は無視できない要因であると考えられる．

今後の課題として，調査項目の拡充や，他の震災復興地域を対象に同様の分析を実施し，本研究での成果の普遍性や相違点を確認することが挙げられる．

### 参考文献


1) S. Tatsuki and H. Hayashi, “Seven Critical Element Model of Life Recovery: General Linear Model Analysis of the 2001 Kobe Panel Survey Data,” Proc. of the 2nd Workshop for “Comparative Study on Urban Earthquake Disaster management,” pp. 27-46, 2002.
2) 後藤　純：復興まちづくりにおけるコミュニティの居住環境の課題に関する一考察，都市計画論文集，Vol.56,No.3,pp.619-626，2021.
3) 谷本真佑，南　正昭：復興事業中の生活環境への満足度と住民のソーシャルキャピタルの関連について～岩手県陸前高田市における地区間比較～，土木計画学研究・講演集，Vol. 67，2023.
4) 谷本真佑，南　正昭：大規模都市整備事業の進捗にともなう生活環境への住民意識とソーシャルキャピタルの時点比較分析，環境情報科学論文集，Vol.34，No.4，pp.73-78，2020.
5) 陸前高田市：陸前高田市東日本大震災検証報告書，2014.